

②倉敷・福山両市の広域連携を活用できるメリットは大きい。しかし、自然や文化、産業等の地域の魅力を磨き、担うべき役割を明確にしておかなければ両圏域のはざままで存在感を失うおそれがあるが、考えをたずねる。

市長 ①経済成長を目指す戦略等を盛り込んだビジョンの策定を行うとともに、次年度からの取組み実施に向けた連携協約を今年度中に倉敷・福山両市と締結する予定としている。

②倉敷・福山両市の圏域とそれぞれ連携する中で、両圏域をつなぐ役割を担うことで、両圏域の中でも存在感を發揮していきたい。

議員 ベイシテイ構想の提案時、離島センター・旅客船ターミナル、このような計画を見た時、胸が踊るようだった。しかし、これほどの計画を示しても未だ手つかずのままである。具体的な計画を本当に今年度中に示すことができるのか。

市長 救急病院を利用するための幹線道路の整備等、具体的な案もあるが、本市にとって必要なものを詰めていき、これから具体的なものを今の時代に合った、地域にとつての行政サービスへ向上できるように考えていきたい。

笠岡湾再開発事業について

議員 これから倉敷・福山両市との新たな広域連携事業に参加することもあり、それをきっかけに新たな港湾整備の計画を行う考えはないのか。

市長 今後の社会環境や財政状況を考えると、現時点では多額の事業費を必要とする大規模な整備計画を策定していく状況であると考えている。そのため当面は現在の老朽化した待合所を撤去し、新たな待合所と駐車場を整備する予定である。しかし長期的には笠岡港を人的交流拠点とし、社会環

境等も考慮した整備計画の必要性も考え、港湾管理者である県と協議していく。

議員 本市のように港のすぐ近くに立地されている駅がある所は少ない。また瀬戸内海の中央に面しており、笠岡港が瀬戸内海の観光の拠点になっても不思議ではない。この港を整備するこ

とが本市の発展にもつながるし、島の活性化にもつながる。しかし現在の笠岡港の現状は遊漁船のたまり場になっていく。まず、このような現状をどうにかするべきと考えるが、どうか。

市長 県との協議が必要であるが、今後そのようなことも考慮した整備計画を立てていきたい。

樋之津倫子議員



一般廃棄物減量の推進について

議員 一般廃棄物減量等の推進についての答申では、一般家庭ごみの指定袋を無料配布している現行の制度を変えて、完全有料化することを柱としている。しかし、ごみの減量化という目標を達成するには、ほかにも方法がある。あえてごみ袋の有料化がより効果的だと言えるのはなぜか。

市長 一般的にごみ袋の有料化は、市民にごみ袋購入に係る費用負担を軽減しようという動機づけが生まれ、その結果、ごみの排出量の抑制に効果があると考えている。また、岡山市等が有料化に移行して、家庭ごみの排出量が大幅な減量となった実例もあり、効果的な方策と考えている。

議員 徳島県上勝町ではゼロ・ウェイスト宣言を行った。徹底した34項目にわたる分別を行って、資源化率80%を達成している。ゼロ・

ウェイストは「地域主体・低コスト・低環境負荷・最新技術に頼らない技術」の実現を目指すものである。今本市が抱えているごみ問題の解決にふさわしい道だと考えるが、どうか。

市民生活部長 他自治体の優れている所は当然参考にしていきたい。しかし行政のみで決めるのではなく今後市民、議会等の意見も参考にしながら、ごみ問題に取り組んでいきたい。

学校規模適正化計画の姿勢について

議員 学校統廃合問題については議会報告会や教育委員会への説明会でも様々な意見が出されている。

①学校が地域に果たす役割についてたずねる。

②本市は人口増対策・定住促進政策を大きく掲げ、一定の成果を上げている。しかし市の説明会では「学校が統廃合されるならばその政策に逆行するのではない